販売用資料
2026年6月

モルガン・スタンレー フィジカルAI株式ファンド

追加型投信／内外／株式

NISA（成長投資枠）の対象ファンドです。
※販売会社によっては、お取扱いが異なる場合があります。

※お申込みの際は必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

目論見書のご請求・お申込みは…

あかつき証券株式会社

〈販売会社〉
商 号 等　あかつき証券株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第67号
加入協会　日本証券業協会
一般社団法人資産運用業協会

設定・運用は…

大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management

〈委託会社〉
商 号 等　大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第352号
加入協会　一般社団法人資産運用業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

AIはデジタル空間から現実世界へ

AI は長らく、テキスト解析や画像生成といったデジタル領域の技術として認識されてきた。
だが現在、AI はその境界を越え、現実世界へと活用領域を広げている。

その存在は、もはや画面の中だけに限定されるものではない。
自律的に感じ、判断し、そして動き出す。

AIは「考える」だけの存在から
現実世界で動く存在——“フィジカルAI”へと進化している

2026年は「フィジカルAI元年」～フィジカルAI実用化に向けて世界は動き始めている～

フィジカルAIに“著名経営者が熱視線”*

ジェンスン・フアン（エヌビディア CEO）
「フィジカルAIのChatGPTモーメントが到来した」
― 生成AIの成長に続き、今後のフィジカルAIの発展を示唆（CES 2026 基調講演、2026年1月）

ジェフ・ベゾス（アマゾン・ドット・コム 元CEO）
現実世界で稼働するAIを開発するスタートアップ「Project Prometheus（プロジェクト・プロメテウス）」に参画
― CEO退任後、初の経営復帰の事業としてフィジカルAIを選択

フィジカルAIへの“巨額資本が動いた”

ソフトバンクグループ
ABBのロボティクス事業の買収を発表
― 人類の進化に資するASI（人工超知能）の実現をめざす

スペースX
AI開発企業「xAI」の買収を発表
― AIと宇宙開発を統合する「イノベーションエンジン」構築をめざす

フィジカルAIは“実用フェーズへ突入”

テスラ
ヒューマノイド「Optimus（オプティマス）」が自社工場で実地訓練・試験運用を開始
― 2026年から生産を開始し、2027年には世界展開をめざす

オーロラ・イノベーション
米テキサス州でドライバーレス（運転手なし）トラックの商用運行を開始
― 約960km区間（米国テキサス州フォートワース～エルパソ間）を走行

＊AI業界における技術動向に関する第三者の一般的な見解を紹介するものであり、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。
※上記は資料作成時点の公開情報に基づく一例であり、特定の年における実現や成果を断定するものではありません。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、各種資料

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

ファンドのポイント

1 急速な拡大が見込まれる“フィジカルAI”の成長を捉えます。

- ✓ 生成AIの急速な普及によるAIの進化に加え、高精度センサーや制御技術などのハードウェアの進化により、現実世界で活躍の場を広げる「フィジカルAI」に着目します。

2 幅広いフィジカルAI関連分野に着目し、AIの実装や活用から成長が期待される企業に投資を行ないます。

- ✓ 当ファンドでは、フィジカルAIを「現実世界に実装され、機械・ネットワーク・プラットフォームが『感知し、判断し、行動する』ことを実現するAI」、つまり、「現実世界で幅広く活躍するAI」と考えています。
- ✓ ヒューマノイドや産業用ロボットといった一般的にイメージされるフィジカルAIに加え、サプライチェーン、金融、宇宙など、AIが現実世界に実装されていく過程で長期的な成長が見込まれる幅広い分野に着目し、多様な成長機会を捉えます。

3 独自の調査手法と豊富な経験を有するモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの運用チームが運用を行ないます。

- ✓ 豊富な運用経験を有する運用チームが、幅広い視野で長期的な価値創出の源泉を見極めます。
- ✓ さらに、独自の視点を持つ3つの調査チームによる多面的な分析を通じて、イノベーションのダイナミクスを捉えます。

フィジカルAIとは

- AIはデジタル空間にとどまらず、現実世界で自律的に認識・判断・行動する段階へと進化しています。この「現実世界で自律的に動くAI」を「フィジカルAI」と言います。
- 従来のAIが文章・画像・音声といったデジタル領域にとどまっていたのに対し、フィジカルAIは生成AIの「知能」とロボットの「身体性」を併せ持つことで、現実世界での自律的な認識・判断・行動を可能にします。

フィジカルAIとは？

生成AI：知能

身体を持たず、主にデジタル空間で理解・推論・生成を行なう

×

ロボット：身体性

定められた動作の繰り返しで、自律性・柔軟性がない

＝

フィジカルAI

生成AI・ロボットとの違い

	生成AI	ロボット	フィジカルAI
主な活動領域	デジタル領域（PC・スマートフォン）	現実世界（工場など）	**現実世界とデジタル領域**
主な機能	デジタルコンテンツの生成、推論	定められた動作の繰り返し	**状況を理解し自律的に行動**
学習・適応	あり（データから学習）	原則なし	**あり（現実世界から学習・適応）**

現実世界とデジタル領域を横断した新たな価値創出が可能となり、様々な分野で革新的な投資機会を生み出す

※本資料における「フィジカルAI」の定義や見解は、当ファンドにおける「フィジカルAI」の説明を目的としたものであり、特定の技術動向や将来の成果を保証するものではありません。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

なぜ今、フィジカルAIなのか

■ 生成AIの急速な普及によるAIの進化に加え、技術的ブレイクスルーによるソフトウェアとハードウェアの統合、さらには労働力不足や高齢化といった社会課題への解決策として、フィジカルAIは現実世界で活躍の場を大きく広げています。

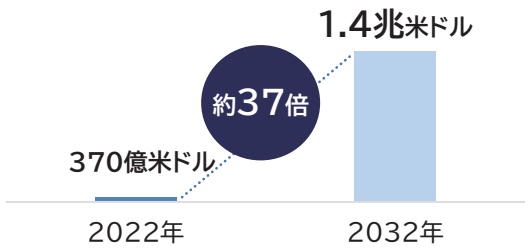
フィジカルAIの拡大を支える主な3つの要因

生成AIの急速な普及によるAIの進化

性能が向上し“安定的な稼働”が可能になった

推論や計画などの「行動の前提となる能力」が向上。自律的な行動が可能に。

世界の生成AI市場規模の推移（すべて推計値）



※2024年3月時点の推計値。

技術的ブレイクスルーによるソフトとハードの統合

現実世界で“動く”ための技術条件が揃った

ソフトウェア（AI）の急速な進化に加え、高精度センサーやロボティクス制御技術などのハードウェアも大幅に進化。

ソフトウェア（知能）の進化 × ハードウェア（身体）の進化

労働力不足・高齢化の深刻化

人手不足の“現場”で導入が進む

人手不足が深刻な労働集約型産業において、フィジカルAIは、人の代替ではなく、人と協働するパートナーとして導入が進む。

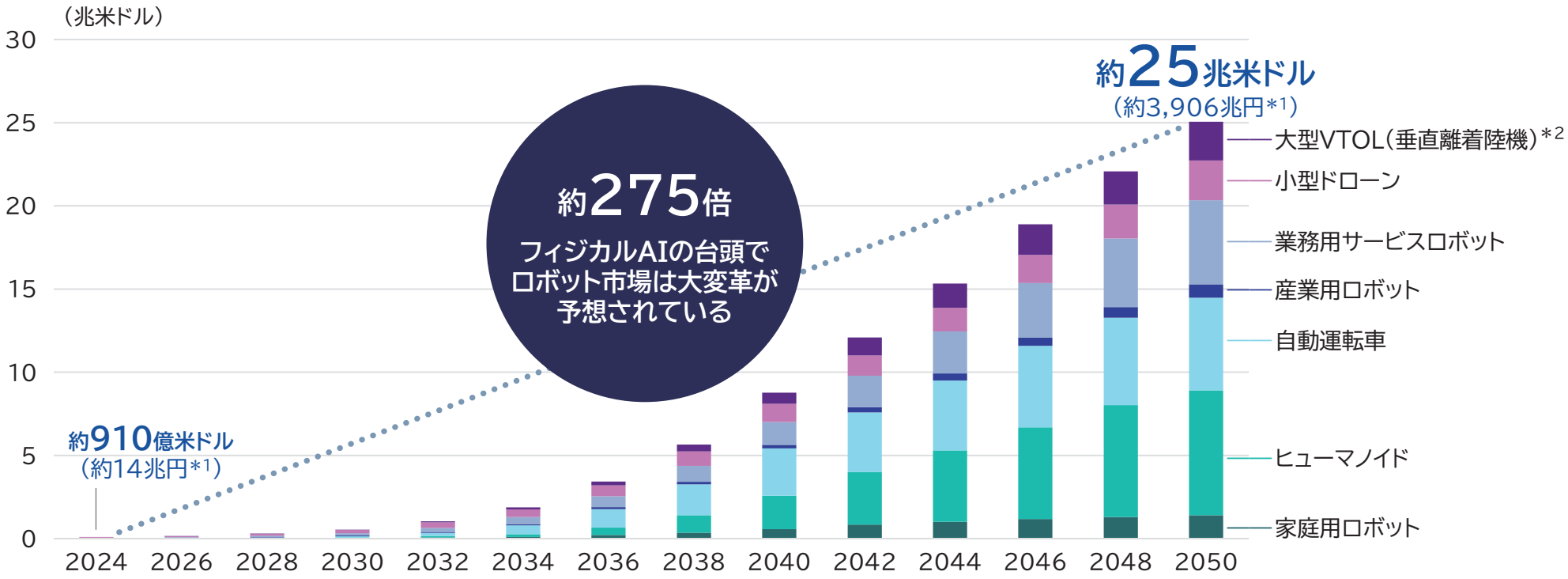
※本資料における「フィジカルAI」の定義や見解は、当ファンドにおける「フィジカルAI」の説明を目的としたものであり、特定の技術動向や将来の成果を保証するものではありません。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、Statista

フィジカルAIがロボット市場を大きく牽引

- ロボットにAIが組み込まれることで、これまで導入が難しかった領域にも急速に活用が広がり、ヒューマノイドや自動運転、産業用ロボットなどを含む世界のロボットのハードウェア市場は、今後急拡大が見込まれています。
- さらに、ソフトウェアやサービスなどの関連領域まで含めると、市場規模は一段と大きくなり、フィジカルAIは巨大な成長機会を生み出すと考えられます。

世界のロボット売上高の推移（すべて推計値）　※ハードウェア単体のみ、分野別



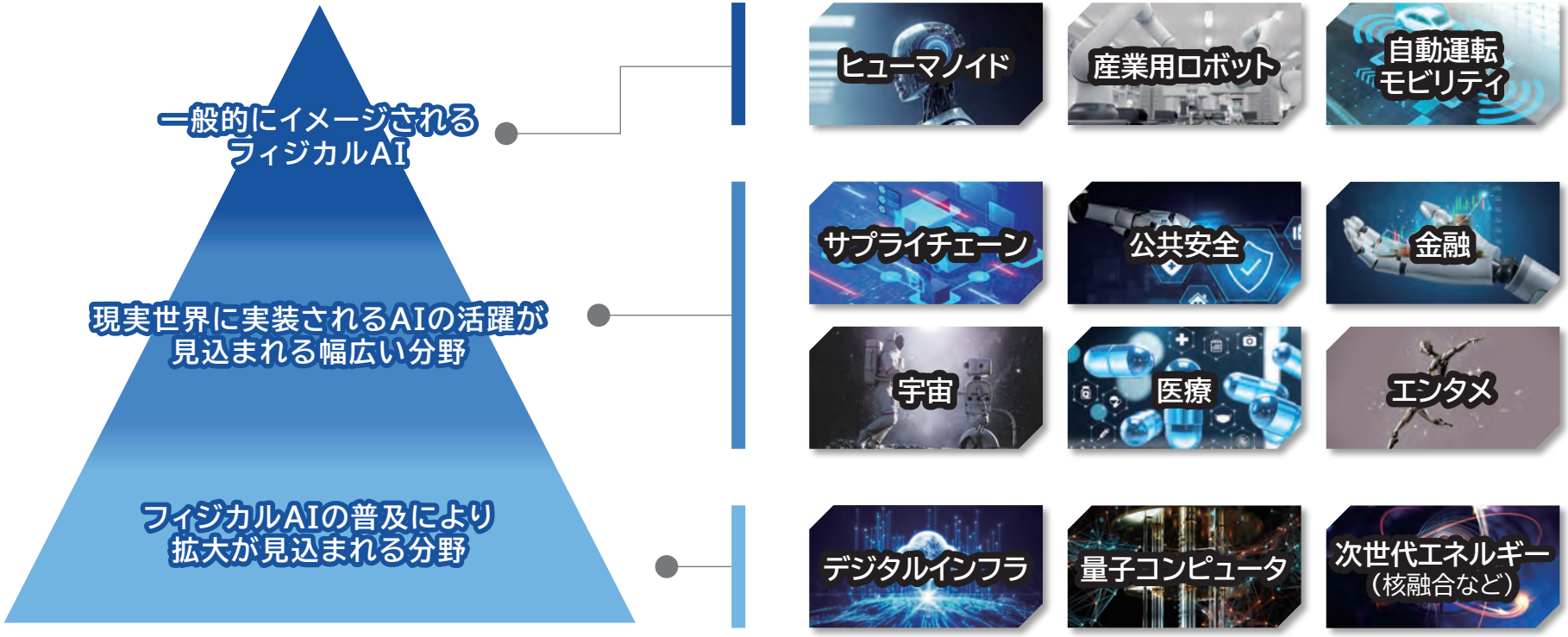
＊1　1米ドル155.91円（2026年2月末時点の為替レート）で換算。　＊2　滑走路を使わず、真上に飛び立ち・着地が可能な航空機。
※2025年12月時点の推計値。
※上記はハードウェア単体の売上高のみであり、ソフトウェアやサービス、メンテナンス、サプライチェーンなどを含めるとこの数値は大きく増加する可能性があります。
※本資料における「フィジカルAI」の定義や見解は、当ファンドにおける「フィジカルAI」の説明を目的としたものであり、特定の技術動向や将来の成果を保証するものではありません。
（出所）モルガン・スタンレー・リサーチ予想、ブルームバーグ

ロボットだけではない、幅広いフィジカルAI関連分野に着目

- 当ファンドでは、フィジカルAIを「現実世界に実装され、機械・ネットワーク・プラットフォームが『感知し、判断し、行動する』ことを実現するAI」、すなわち「現実世界で幅広く活躍するAI」と考えています。
- 当ファンドでは、ヒューマノイドや産業用ロボットといった一般的にイメージされるフィジカルAIに加え、サプライチェーン、金融、宇宙など、AIが現実世界に実装されていく過程で長期的な成長が見込まれる幅広い分野に着目し、多様な成長機会を捉えます。

当ファンドが着目するフィジカルAI関連分野の例

— AIが現実世界に実装されていく過程で生まれる長期的な価値は、ロボット領域にとどまらない —



※本資料における「フィジカルAI」の定義や見解は、当ファンドにおける「フィジカルAI」の説明を目的としたものであり、特定の技術動向や将来の成果を保証するものではありません。
※上記は、分かりやすく説明するために示したイメージ図です。※上記は一例であり、上記以外にも投資する可能性があります。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント

フィジカルAI関連分野の例

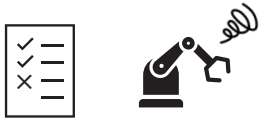
ヒューマノイド ― AIが人の動きや作業環境を理解し自律的に行動 ―

ヒューマノイドが実用段階へ進む理由

- 近年のAIの進化により、ヒューマノイドは周囲を認識し、手順を組み立て、失敗を検知・修正するといった一連の判断を行なえるようになりつつある。
- **「指示待ち」で停止しやすかった従来のロボットに比べ、想定外への対応力が向上**し、適用範囲の拡大とともに導入が進むことが見込まれる。

従来のロボット

- 事前に決められた動作のみを実行
- 想定外に弱く、停止しやすい
- 人による監視・再指示が前提



ヒューマノイド

- 周囲を認識し、手順を組み立てて自律的に動作
- 失敗を検知し、修正しながら作業を継続

人と協働し、現場を支える存在へ

- ヒューマノイドは、人間向けに設計された既存の設備や道具をそのまま活用でき、多様な作業環境に柔軟に対応できるため、**従来のロボットよりも導入のハードルが低い**。
- 労災リスクの低減と生産性向上を同時に実現し、製造業・物流、危険・高リスク作業、家庭・介護など、幅広い分野での活躍が見込まれる。

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。

銘柄紹介

EVメーカーから、フィジカルAIを中核とする「巨大なスタートアップ」へ

テスラ　米国 / 一般消費財・サービス

従来のEVメーカーという枠を超え、FSD(フル・セルフ・ドライビング)やロボタクシー、ヒューマノイド「Optimus」など、フィジカルAIを成長の源泉とするAI企業へ転換中。

注目ポイント

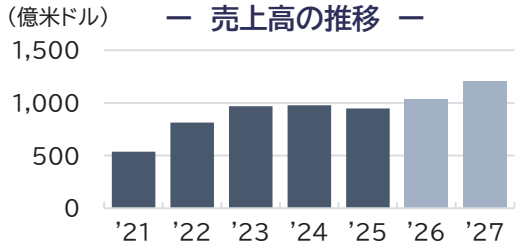
現実世界のデータを活用したフィジカルAIの開発力

同社の最大の強みは、公道を走行する自社EVから製造工場まで、**AI訓練に不可欠な現実世界データの収集・活用を自社エコシステム内で一気通貫して行なっている**点にある。走行データをFSDやロボタクシー開発に活用し、「Optimus」を自社工場で稼働させることで、機動的なフィジカルAIの事業展開が期待される。

「巨大なスタートアップ」としての企業文化

イーロン・マスク氏の強力なリーダーシップを背景に、**大企業でありながらスタートアップ的な挑戦を続ける企業文化**は新しい事業分野を推進する上での優位性であると考えられる。

― 売上高の推移 ―



売上高:2021年～2027年(12月決算)
※2026年以降は2026年3月現在のブルームバーグ予想値。

運用チームの着眼点

強みである高度運転支援技術をヒューマノイドへ横展開し、完全自社開発によるエコシステムを構築している点などを高く評価。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、各種資料

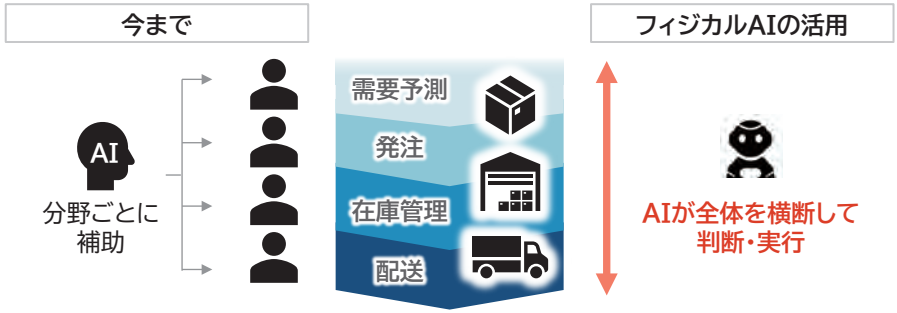
当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

フィジカルAI関連分野の例

サプライチェーン ― AIが需要予測から物流、販売までを自律的に管理 など ―

「サプライチェーン」の分野でAIが活躍する理由

- 従来、AIは需要予測のための分析や物流倉庫内の最適なレイアウトの提案など、分野ごとに人の判断や行為を補助する役割を担ってきた。
- 今後は、需要予測に基づく発注や、入庫・配置・出荷といった物流オペレーション全体を「実行」まで含めてAIが担うなど、サプライチェーン管理の主体がAIへ移行することが見込まれる。



「サプライチェーン」の分野におけるAIの具体的な活用例

✓ 需要予測から発注までの自動化
（需要変動を踏まえた発注量・タイミングの最適化）

✓ 欠品・過剰在庫といった在庫リスクの事前回避
（在庫状況に応じた調整の自動化）

✓ 原材料不足や物流停滞など、サプライチェーン障害への自律対応
（代替調達・ルート切り替えの迅速化）

など

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。

\ 銘柄紹介 /

中南米のEコマース拡大と物流最適化が成長を牽引

メルカドリブレ　米国 / 一般消費財・サービス

中南米市場向けオンライン取引ウェブサイトを運営し、個人・企業による出品・販売を可能にするほか、広告掲載やオンライン決済サービスを提供。

注目ポイント

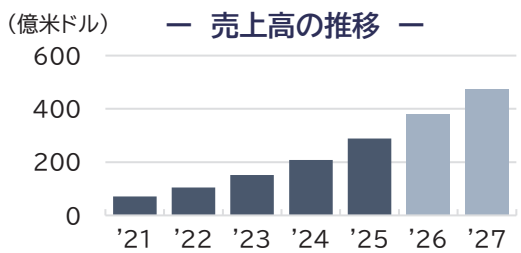
AIを活用した“検索・在庫・配送”の最適化

同社は、検索・需要予測の高度化に加え、物流センター管理や在庫配置、配送ルート最適化、売れ行き予測による在庫最適化などにAIを活用し、配送の迅速化と効率化を進めている。将来的には、ドローンや自動配送ロボットによるラストワンマイルの無人化も期待される。

中南米Eコマースの拡大余地と物流・フルフィルメント*の高度化

中南米では小売全体に占めるEコマース比率がまだ低く、成長余地が大きい。加えて、物流・フルフィルメントの高度化により、収益性の改善も期待される。

＊Eコマース・通販における受注から配送・顧客対応までの全プロセス。



売上高：2021年～2027年（12月決算）
※2026年以降は2026年3月現在のブルームバーグ予想値。

運用チームの着眼点

中南米におけるEコマースと物流網を一体で高度化。AIによる需要予測・在庫・配送の最適化を進めることで、規模拡大と収益性改善の両面で成長余地が大きい点を評価。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、各種資料

フィジカルAI関連分野の例

公共安全 ― AIが不審者や不審行動を自律的に検知 など ―

「公共安全」の分野でAIが活躍する理由

- 防衛や警備などの公共安全の現場は、社会的責任が極めて大きく、**判断や対応において失敗が許されない領域**である。
- この分野では、**現場の状況を継続的に把握し、異常の兆候を早期に検知して対応につなげることが重要**であり、フィジカルAIの活用は、**従来型の方法では難しかった判断の一貫性と信頼性の向上に貢献**すると考えられる。

「公共安全」の分野におけるAIの具体的な活用例

✓ AIによる手荷物検査・武器検知
✓ AIによる警察・捜査機関の証拠データ解析
✓ AIによる不審者の異常行動の事前検知　　など

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。

\ 銘柄紹介 /

公共空間の安全を支えるAI武器検知ソリューションを提供

エボルブ・テクノロジーズ・ホールディングス

米国 / 情報技術

AIを統合した武器検知・セキュリティ検査向けソフトウェアを提供。空港やイベント会場における手荷物検査装置向けにAIソフトウェアを展開。

注目ポイント

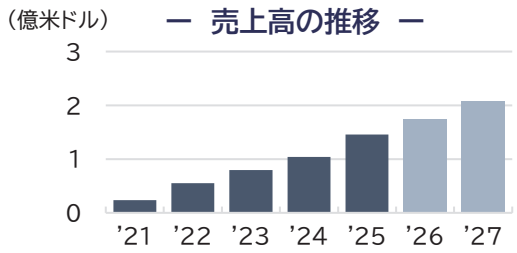
人流を止めないAI武器検知で運営効率を改善

同社の武器検知装置は、銃器や爆発物、刃物などの特徴を学習したAIが瞬時に検知を行なう。検査のために人の流れを止める必要がなく、施設やイベントのスムーズな運営が可能。金属探知機が「素材」を検知するのに対し、同社のソフトウェアは**危険物特有の「形」をAIが検知するため、より広範な武器を迅速に検知できる**。

公共安全分野におけるAI活用拡大の追い風

公共施設や医療機関を中心に武器検知装置の導入が進んでおり、公共安全分野におけるAI活用は今後も拡大が見込まれる。

― 売上高の推移 ―



売上高：2021年～2027年（12月決算）
※2026年以降は2026年3月現在のブルームバーグ予想値。

運用チームの着眼点

NFLやイングランド・プレミアリーグのチームでも同社ソフトウェアを用いた装置が採用されるなど、AI実装初期段階にある武器検知・公共安全分野のリーディングプレーヤーとして高く評価。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、各種資料

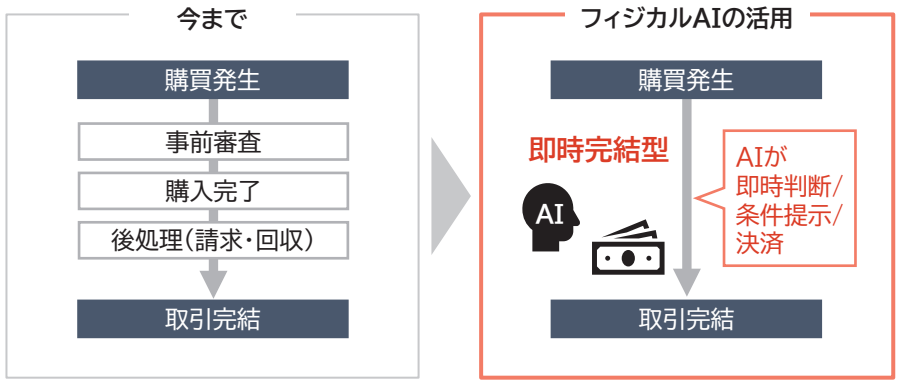
当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

フィジカルAI関連分野の例

金融 ― AIが決済や融資判断をリアルタイムで実施 など ―

「金融」の分野でAIが活躍する理由

- AIの技術進歩により、**現実世界での購買や取引は、発生と同時に完結する即時型の経済行動へ**と変化しつつある。
- こうした環境では、従来の事前審査や後処理を前提とした金融モデルでは対応が難しく、**瞬時に判断し、即時に実行できるAIが金融分野において不可欠**となる。



「金融」の分野におけるAIの具体的な活用例

✓ AIによる取引単位での瞬時の与信判断
✓ 取引条件(金利・分割条件など)を瞬時に判断するAI
✓ AI同士が取引を行なうM2M(Machine to Machine)決済　　など

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。

\ 銘柄紹介 /

AIで「支払い」をリアルタイムに最適化する次世代決済プラットフォーム

アファーム・ホールディングス　米国 / 金融

消費者向けにBNPL(後払い決済)*サービスを提供するフィンテック企業。
＊商品購入代金を分割や一定期間後に支払う決済手段。同社は消費者に代わって小売事業者へ立替払いを行ない、分割手数料や加盟店手数料を受け取る。

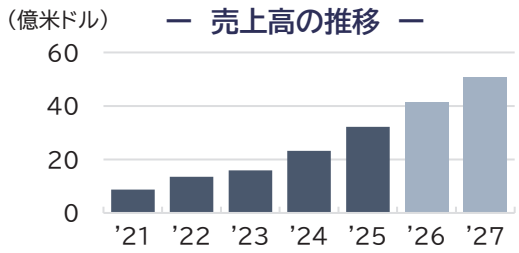
注目ポイント

AIが意思決定する"リアルタイム決済"モデル

同社の「AdaptAI」は、商品購入時の内容と信用データをAIがリアルタイムで解析し、最適な決済条件を提示するAI駆動型ソリューション。**事前審査に依存せず、購買行動そのものをデータとして活用**し、決済をAIの判断領域へと進化させている。

「守り」と「攻め」を両立するAI活用

「AdaptAI」は、信用リスク管理に加え、無理のない支払い条件の提示によって購買体験を高め、リピート率向上にも寄与するAI。導入により**コンバージョン率*が約10%向上**するなど、業績貢献の兆しが見られる。
＊Eコマースで商品をカートに入れた人のうち、実際に購入まで進んだ割合。



売上高:2021年～2027年(6月決算)
※2026年以降は2026年3月現在のブルームバーグ予想値。

運用チームの着眼点

創業者兼CEOのマックス・レヴチン氏は、1998年にPayPalを共同創業した決済分野の先駆者。運用チームは同氏の一貫した経営姿勢と長期ビジョンを評価。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、各種資料

フィジカルAI関連分野の例

デジタルインフラ ― フィジカルAIの動作に不可欠なデータ基盤 ―

フィジカルAIの普及により「デジタルインフラ」が拡大する理由

- ロボットや車両など、現実世界でのAI活用は、人やモノに直接影響し得るため、**わずかな判断や制御の遅れが重大な損害や事故につながる**恐れがある。
- そのため、**遅延しにくく信頼できるデジタルインフラへの需要が高まる**。

デジタル空間

AIの遅延

体験の質の低下

例：動画・検索

現実世界

フィジカルAIの遅延

重大な損害・事故の恐れ

例：ロボット制御・自動運転・警備

AIの継続稼働を支えるデジタルインフラの例

✓ クラウド集約型ネットワークと、デバイスの近くで処理を行なう分散型のエッジネットワーク

✓ リアルタイム処理を支える高速・安定通信（5G／将来の6Gなど）

✓ 高品質なデータセンター・電力インフラ　　など

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。

\ 銘柄紹介 /

現実世界で動くAIの「知覚・判断・実行」を支えるエッジネットワークを提供

クラウドフレア　米国 / 情報技術

ウェブサイトやアプリケーション、AIの安全かつ高速な稼働を実現するプラットフォームを提供。

注目ポイント

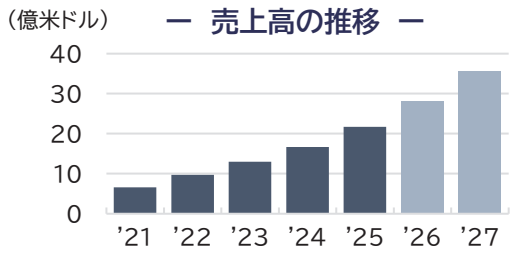
分散型エッジネットワークによる“低遅延”の実現

同社は、**世界300超の都市に配置したエッジサーバーで、データ処理やセキュリティ対策をデバイス付近で行なう、中央集権型ではない分散型ネットワーク**を構築。ロボットや車両などに搭載されたAIの即時判断・実行を支えるインフラとして、需要拡大が期待される。

模倣困難なグローバルインフラによる競争優位性

世界規模のエッジネットワークの構築は、**大規模な投資を要し、容易に模倣することは困難**である。このような参入障壁の高さを背景に、同社はフィジカルAIの普及と市場拡大に伴う持続的な成長が見込まれる。

― 売上高の推移 ―



売上高：2021年～2027年（12月決算）
※2026年以降は2026年3月現在のブルームバーグ予想値。

運用チームの着眼点

上場前からCEOマシュー・プリンス氏と継続的に対話・分析を実施。通信トラフィックの拡大を背景に、通信・セキュリティ・計算を担う同社のエッジプラットフォームは成長の恩恵を受けると評価。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ、各種資料

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Morgan Stanley
INVESTMENT MANAGEMENT

独自の調査手法と豊富な経験を有する モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントの カウンターポイント・グローバル株式運用チームが運用を行ないます。

ニューヨークの本社ビル
©Morgan Stanley

モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント について

- モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントは、モルガン・スタンレーの資産運用部門です。
- 世界各国にある拠点を通じて、株式、債券等の伝統的資産運用のほか、幅広い資産クラスを投資対象とする運用戦略および運用サービスを世界の投資家に提供しています。

設立年	運用資産残高	所在国数
1975年	約1.9兆米ドル（約298兆円*）	20か国以上

※2025年12月末時点。

カウンターポイント・グローバル株式運用チーム について

広い視野を重視し、ファンダメンタル・リサーチ、イノベーション、長期的思考を運用プロセスに統合
個別銘柄分析を補完する、企業・セクター横断的な3つのリサーチ組織をチーム内に擁する

インベスターチーム
運用資産残高 | 約284億米ドル（約4兆4,506億円*）（2025年12月末時点）
運用担当者 | 計19名（2026年1月末時点）

ディスラプティブ・チェンジ・リサーチ
（破壊的変化に対する調査）
▶ 長期の構造変化・新たな投資テーマを調査

コンシリエント・リサーチ
（統合的調査）
▶ 分野横断的に企業分析を行ない、知的資本を強化

サステナビリティ・リサーチ
（サステナビリティ調査）
▶ 企業の環境・社会要因を分析

＊1米ドル156.71円（2025年12月末時点の為替レート）で換算。

ポートフォリオ・マネジャー　について

Dennis Lynch　デニス・リンチ

ポートフォリオ・マネジャー兼
カウンターポイント・グローバル株式運用チーム責任者
業界経験年数：32年（2026年1月末時点）

＜主な受賞歴*＞
「Morningstar Hall of Fame：Morningstar Awards for Investing Excellence」（殿堂入りファンドマネジャー）
2013年の米国内株式部門において、デニス・リンチおよび運用チームが受賞。

Thomas Kamei　トーマス・カメイ

ポートフォリオ・マネジャー
業界経験年数：14年（2026年1月末時点）

＜主な受賞歴*＞
「Forbes 30 Under 30」（2018年・Finance部門）
米Forbes誌が選出する「30歳未満で最も影響力のある人材」に選出。

＊当該評価は公開情報に基づくものであり、過去の一定期間の実績を示したものです。将来の運用成果を保証するものではありません。なお、当該評価は当ファンドにおける評価ではありません。

ディスラプション投資のパイオニア　ディスラプティブ・チェンジ・リサーチ　について

当運用チームは20年以上にわたり、ディスラプティブ・チェンジ・リサーチを通じ、
様々なディスラプティブ・チェンジ（破壊的イノベーションによる構造変化）を捉えてきました。
こうした分析を踏まえ、**数あるテーマの中でも今、産業構造に大きな変化をもたらすと考える領域が「フィジカルAI」**です。
AI成長の波がデジタル空間を超えて現実世界へと広がることで、幅広い分野に新たな投資機会が生まれると考えています。

＜ご参考＞主な投資およびディスラプティブ・チェンジ・リサーチの実績

※下記は、当運用チームが運用開始来で投資実績のある銘柄を例示目的でのみ掲示したものであり、当ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。

- 2005：アルファベット（旧グーグル）、アマゾン・ドット・コムへ投資開始
- 2010：メタ・プラットフォームズ（旧フェイスブック）へ投資開始（当時未上場）
- 2013：ブロックチェーン技術の調査開始
- 2013：宇宙ビジネスの調査開始
- 2015：ウーバー・テクノロジーズへ投資開始（当時未上場）
- 2016：AIの調査開始
- 2020：量子コンピューティングの調査開始
- 2021：米国ミューチュアルファンド史上初めてビットコインへ投資*
- 2023：核融合技術の調査開始

＊モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント調べ。

※上記チーム体制は、今後変更されることがあります。※運用チームのメンバーは予告なく変更される可能性があります。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、各種資料

運用プロセス

多面的なアプローチと差別化された意思決定プロセスにより高度な情報獲得をめざす

投資アイデアの創出 → 企業分析およびバリュエーション → ポートフォリオ構築 → リスク管理

投資アイデアの創出

一次情報によるリサーチ

- チーム内の議論
- コンタクト・ネットワーク
- リーディング・ネットワーク
- 投資先企業のリサーチ　など

フィールドリサーチ

- 経営会議
- 現地訪問
- 製品デモ
- カンファレンス
- 顧客インタビュー　など

投資アイデアの精緻化

- 早期フィードバック
- 市場におけるバイアスの特定と活用
- パターン認識　など

企業分析およびバリュエーション

企業分析

以下の観点で企業を評価

- 持続的な競争優位性
- 平均を上回るビジネスの可視性
- 長期的な継続成長の可能性
- フィジカルAI関連のビジネス・エクスポージャーおよび/または整合性

バリュエーション

以下の指標に基づき、5～10年後にかけての成長性や獲得可能性のある市場シェアに基づく企業価値を評価

- 総潜在市場規模(TAM)
- 収益
- キャッシュフロー
- 事業単位毎の経済性
- 将来のオプショナリティ　など

ポートフォリオ構築

ボトムアップ・アプローチ

セクター、地域別配分は銘柄選定の結果

ウェイト決定

確信度と全体的なリスク/リターン特性を考慮

典型的な売却理由

- 投資テーマの変化
- より良い代替銘柄の特定
- 各ポートフォリオの資産パラメータの維持

リスク管理

ファンダメンタル・アプローチ

真の企業価値を棄損する可能性のあるファンダメンタルズ要因を慎重に検討し、モニタリング

※上記の情報は、運用チームが通常の市場環境下において一般的に適用する運用プロセスを示すものです。将来にわたり同様に実施されることを保証するものではありません。
※リスク管理とはリスクを監視することを意味しますが、低リスクと混同されるべきではなく、また低リスクを意味するものではありません。分散投資は、下落相場における損失リスクを排除するものではありません。

(出所)モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント

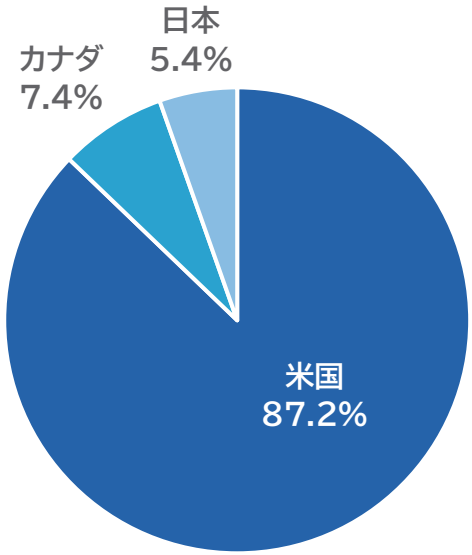
モデルポートフォリオの状況① （2026年2月末時点）

※モデルポートフォリオは、当ファンド設定後の実際の運用に適用されるとは限りません。

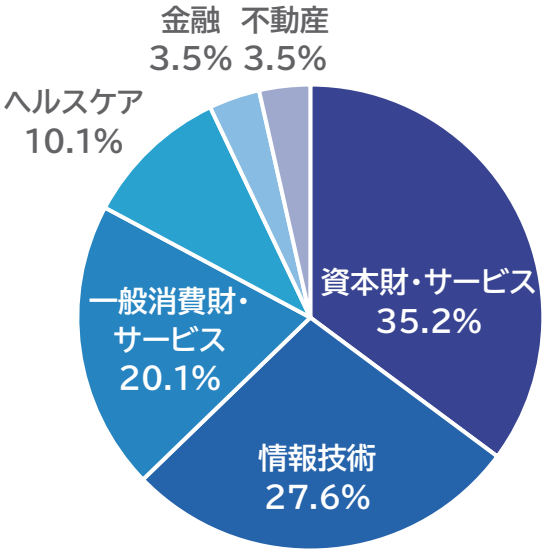
ポートフォリオ特性値

	モデル ポートフォリオ	＜ご参考＞ 世界株式
予想PER （倍）	64.7	18.8
予想売上高成長率 （%）	40.9	7.4
加重平均時価総額 （億米ドル）	1,645	7,684
銘柄数	30	2,514

国・地域別構成



業種別構成



※世界株式はMSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（MSCI ACWI）。
※予想PERおよび予想売上高成長率は12か月先予想。なおデータが取得できない、または異常値となっている一部の銘柄を除いて算出しています。
※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。
※各比率は、キャッシュを除くモデルポートフォリオ全体を100%とした場合の比率です。※四捨五入の関係で比率の合計が100%にならない場合があります。
※モデルポートフォリオは、あくまでも参考のために掲載したものであり、当ファンドとは異なります。また、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント、ブルームバーグ

モデルポートフォリオの状況② （2026年2月末時点）

※モデルポートフォリオは、当ファンド設定後の実際の運用に適用されるとは限りません。

組入上位10銘柄

組入銘柄数：30

銘柄名	国・地域名	業種名	企業概要 / フィジカルAI関連分野	比率
クラウドフレア	米国	情報技術	ソフトウェアソリューション会社。クラウド型のネットワークサービスプラットフォームを設計・開発。 ▸フィジカルAI関連分野：エッジネットワークによるリアルタイム処理	8.6%
テスラ	米国	一般消費財・サービス	電気自動車とクリーンエネルギーを両輪とするグローバル会社。電気自動車、家庭から送電するための蓄電装置、太陽光パネル、ソーラールーフタイル、関連製品とサービスの設計・製造を手掛ける。 ▸フィジカルAI関連分野：自動運転やヒューマノイドなど、多方面でフィジカルAIの活用領域を拡大	8.6%
メルカドリブレ	米国	一般消費財・サービス	オンライン取引会社。中南米市場向けオンライン取引ウェブサイトを運営。 ▸フィジカルAI関連分野：AIを活用したEコマース物流の最適化	6.6%
カナディアン・ナショナル・レールウェイ	カナダ	資本財・サービス	鉄道会社。カナダと米国で鉄道ネットワークを運営。木材、穀物、穀物関連製品、石炭、硫黄、肥料、自動車関連製品などの複合一貫輸送を手掛ける。 ▸フィジカルAI関連分野：現実世界の人やモノの流れをAIで最適化	6.6%
QXO	米国	資本財・サービス	建築用品販売会社。屋根材、防水材、スライド材、建材を販売。 ▸フィジカルAI関連分野：AIを活用した建材サプライチェーンの最適化	6.6%
ナブテスコ	日本	資本財・サービス	航空・油圧機器および輸送用機器、精密機器を製造。 ▸フィジカルAI関連分野：ヒューマノイドや産業用ロボット向けの精密減速機	4.9%
オーロラ・イノベーション	米国	情報技術	自動運転技術会社。人と物の移動のための技術を開発・提供。乗用車、商用車、大型トラックの自動運転プラットフォームを手掛ける。 ▸フィジカルAI関連分野：AIを活用した完全自動運転トラック技術の開発	4.9%
ドアダッシュ	米国	一般消費財・サービス	レストラン食品配達サービス会社。オンデマンドの食品配達アプリケーションを通じて、販売者と顧客をつなげるテクノロジーを開発。 ▸フィジカルAI関連分野：AIを活用したラストワンマイル配送	4.9%
サムサラ	米国	情報技術	ハードウェアとソフトウェアを統合したプラットフォームを開発。GPSによる車両管理、ドライブレコーダー、冷蔵・冷凍輸送の監視、Wi-Fiホットスポットなどのサービスを提供。 ▸フィジカルAI関連分野：デジタル化と物理オペレーションの最適化	4.9%
エボルブ・テクノロジーズ・ホールディングス	米国	情報技術	公共施設やイベント会場等の手荷物検査で用いられる武器検知装置向けのAIソフトウェアを手掛ける。 ▸フィジカルAI関連分野：AIを活用した武器検知	3.9%

※国・地域名は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメントによる分類です。※比率は、キャッシュを除くモデルポートフォリオ全体を100%とした場合の比率です。※モデルポートフォリオは、あくまでも参考のために掲載したものであり、当ファンドとは異なります。また、当ファンドの将来の成果を示唆・保証するものではありません。

（出所）モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント

ファンドの特色

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

1. 日本を含む世界の株式等の中から、AI(人工知能)の現実世界での活用が広がることにより成長が期待できる企業の株式等に投資します。

※株式等には、リートを含みます。

当ファンドにおけるフィジカルAIについて

- 現実世界で活用されるAI(人工知能)をフィジカルAIと言います。
- 従来のAIが主に音声認識、画像生成といったデジタル領域での利用が中心であったのに対し、フィジカルAIは現実世界で自律的に稼働することを目的としており、幅広い産業分野での活躍が見込まれています。

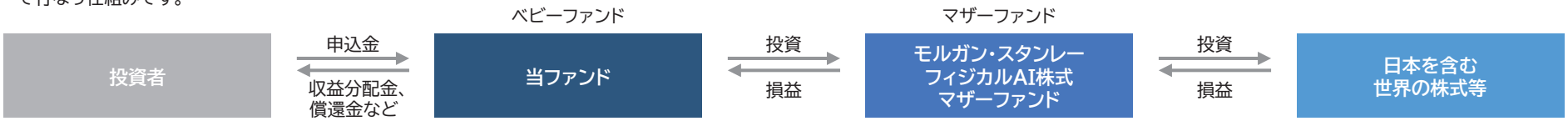
※上記は、変更される場合があります。

2. 株式等の運用は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクが行ないます。

■ 株式等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用の指図にかかる権限を委託します。

ファンドの仕組み

● 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
ファミリーファンド方式とは、投資者のみなさまからお預かりした資金をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



■ マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態で高位に維持することを基本とします。
■ マザーファンドにおいて、株式等の組入比率は、通常の状態で高位に維持することを基本とします。
■ 為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
■ デリバティブ取引(法人税法第61条の5で定めるものをいいます)は、信託財産の資産または負債にかかる価格変動、金利変動および為替変動により生じるリスクを減じる目的ならびに投資の対象とする資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的以外には利用しません。

当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

3. 毎年10月20日(休業日の場合、翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

(注)第1計算期間は、2026年10月20日(休業日の場合、翌営業日)までとします。

分配方針

①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます)等とします。
②原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。
※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

投資リスク

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

基準価額の変動要因

■ 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。**
■ **投資信託は預貯金とは異なります。**

【主な変動要因】 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

価格変動リスク・信用リスク	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 ●株価の変動 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。 当ファンドは、一銘柄当たりの組入比率が高くなる場合があり、より多数の銘柄に分散投資した場合に比べて基準価額の変動が大きくなる可能性があります。 また、特定の分野に関連する銘柄に投資しますので、こうした銘柄の下落局面では、基準価額が大きく下落することがあります。 ●リートの価格変動 リートの価格は、不動産市況の変動、リートの収益や財務内容の変動、リートに関する法制度の変更等の影響を受けます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

■ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
■ 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

リスクの管理体制

■ 委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に関する基本方針に基づき、運用本部から独立した部署および会議体が直接的または間接的に運用本部へのモニタリング・監視を通し、運用リスクの管理を行ないます。委託会社は、運用委託先とファンド運営上の諸方針を反映している運用委託契約に基づく投資ガイドラインを締結し、運用の状況、投資ガイドラインの遵守状況等をモニタリングします。
■ 委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行ないます。
■ 取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

ファンドの費用（消費税10％の場合）

※くわしくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

お客さまが直接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率〈上限〉3.3％（税込）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

	料率等	費用の内容
運用管理費用（信託報酬）	年率1.8975％（税込）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
その他の費用・手数料	「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。
※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場不動産投資信託は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

お申込みメモ

※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

購入単位	最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位
購入・換金価額	申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	① ニューヨーク証券取引所の休業日 ② ①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 (注)申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせください。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受付けを中止すること、すでに受付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
信託期間	2046年10月19日まで(2026年4月28日当初設定)
繰上償還	● 委託会社は、マザーファンドの信託財産につきモルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクと締結した運用指図権限の委託にかかる契約が終了し、マザーファンドがその信託を終了させることとなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させます。 ● 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。 ・受益権の口数が30億口を下回ることとなった場合 ・信託財産の純資産総額が30億円を下回ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	毎年10月20日(休業日の場合、翌営業日) (注)第1計算期間は、2026年10月20日(休業日の場合、翌営業日)までとします。
収益分配	年1回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 (注) 当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせください。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

委託会社	大和アセットマネジメント株式会社	受託会社	三井住友信託銀行株式会社

メモ

大和アセットマネジメント
Daiwa Asset Management

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は大和アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料です。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料で掲載した画像等はイメージです。
- 業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。
- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 当資料でご紹介した企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。